

鶴ヶ島市立南小学校 小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学校教育目標・教育方針	教職員	①私は、学校教育目標や教育方針を理解し、達成できるよう努めている。	<p>① 66% ② 34% ③④⑤ 0%</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標や教育方針について、教職員には浸透しているが、児童、保護者、地域には浸透していない方も一定数いた。児童に対しては、目標を達成するための具体的アプローチに迫る手立てが必要である。また、保護者、地域に対しての周知方法を考える必要がある。 ・本校では保護者に対して学校だよりの配布、学校運営協議会での配布と呼びかけ、児童にはお話朝会でのお話をしてきた。
	児童	①私は、学級目標や個人目標を達成するために努力している。	<p>① 49% ② 42% ③ 5% ④ 4% ⑤ 0%</p>	<p>課題解決への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校だより、学年だより、懇談会資料に定期的に掲載する。 ・C4th Home&Schoolのアプリ配信をする文章の最後に学校教育目標を載せる。
	保護者	①私は、学校教育目標や教育方針を知っている。	<p>① 13% ② 62% ③ 17% ④ 8% ⑤ 0%</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校からの発信が少ない。 ・目標はこうです、という提示だけでなく、説明や教師の思い、児童の思いなどの配信があってもよいのではないかと。 ・回答率が65%であり、もう少し回答率をあげられるとよい。 ・手紙は親まで渡らないこともある。C4th配信をより活用するとともに、16時など保護者が返信しやすい余裕のある時間帯に設定することで、忘れずに返信してもらえるようになるのではないかと。
	地域	①私は、学校教育目標や教育方針を理解している。	<p>① 27% ② 67% ③ 6% ④⑤ 0%</p>	

鶴ヶ島市立南小学校 小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学級経営	教職員	②私は、児童のよさや可能性を發揮できる学級経営を行っている。	<p>① 32% ② 59% ③ 9% ④ 0% ⑤ 0%</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>・おおむね肯定的な評価が得られている。しかし、否定的な評価もあるため、改善していかなくてはならない。課題としては各クラスの学級経営の状況が保護者に伝わりにくいことであると考え。また、グラフを見てみると、児童の生活に対する満足感がやや低めであるため、係活動や学級会の計画的実施が必要である。さらにより良い学級経営ができるよう、hyper-QUテストの結果を確認し、学校全体で情報共有していくとともに、各クラスの状況を保護者にも丁寧に伝えていく必要がある。</p>
	児童	②私は、学級での生活が楽しいと感じている。	<p>① 61% ② 27% ③ 8% ④ 4% ⑤ 0%</p>	<p>課題解決への方策</p> <p>・学校ホームページの写真を多くするなど、さらに活用していく。また、ホームページを更新した際に保護者に連絡が行くようにする。 ・児童が認められる機会を増やし、児童にたくさん伝える。また、保護者にも児童のよい点を積極的に伝えていく。</p>
	保護者	②学校は、児童のよさや可能性を發揮できる学級づくりをしている。	<p>① 19% ② 64% ③ 15% ④ 2% ⑤ 0%</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>・保護者と児童の評価に差がある 保護者は思わない、というより知らないのではないか。 ・子供があまり学校の話をしなくなるので、保護者としては知らないから低くつけがちになると考える。 ・休んだときや問題があったときなど、連絡をくれるのはありがたいことだと思う。 ・学級通信が一番学級の様子が伝わると感じるが、現在は個人情報に気になっているため、なかなか細かい出来事でも伝えられないのではないか。 ・地域の中でのつながり、地域が学校に向ける関心が薄くなっていると感じる。</p>
	地域	②学校は、児童のよさや可能性を發揮できる学級経営を行っている。	<p>① 53% ② 47% ③ 0% ④ 0% ⑤ 0%</p>	

鶴ヶ島市立南小学校 小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学習指導	教職員	③私は、児童が意見を主体的に発表したり、他者の意見を聞いたりして学びを深める授業を実践している。	<p>① 48% ② 48% ③ 4% ④ 0% ⑤ 0%</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鶴ヶ島市で進めている学び合い学習を本校でも進めている。評価としては、全体的にはよいので、今後も積極的に学び合い学習を授業に取り入れていくとともに、日々の授業研究や授業改善に取り組んでいく。 ・児童のアンケートから自分の意見を発表することに苦手意識を持っている児童がいる。苦手な児童に対してのアプローチを考えていく必要がある。 ・保護者の評価では「②だいたいそう思う」の評価が多く、実態を把握できていないと考えられるため、引き続き授業を公開していく必要がある。
	児童	③私は、自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれながら勉強している。	<p>① 51% ② 37% ③ 10% ④ 2% ⑤ 0%</p>	<p>課題解決への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「意見を発表するだけでなく、人の話をしっかり聞けることが大切なんだよ」と児童に伝えていく。また、学習のまとめに本日の学習の様子を自分の言葉で伝えるように書くというような、自分の考えを文章で書く学習も継続して行う。 ・参観の機会はあるので、積極的に来ていただくようにアピールする。
	保護者	③学校は、児童が自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれる授業をしている。	<p>① 32% ② 58% ③ 9% ④ 1% ⑤ 0%</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域、保護者、児童生徒の回答の差は、見ている視点が限られている。児童は、自分の視点、保護者は自分の子供だけ、地域は、学校運営協議会で授業参観のときのみの限られていた場面である。 ・家庭学習も含めた保護者の協力をお願いする。 ・発表の機会を意図的に作るなど、総合の時間の有効活用を進める。
	地域	③学校は、児童が自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれる授業をしている。	<p>① 80% ② 20% ③ 0% ④ 0% ⑤ 0%</p>	

鶴ヶ島市立南小学校 小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学習指導	教職員	④私は、学習目標達成のために学習用端末や大型モニタ等のICT機器を活用して、わかりやすく工夫した授業を行っている。	<p>① 32% ② 58% ③ 10% ④ 0% ⑤ 0%</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の評価において低学年の値が低かった。低学年でも積極的にICTに慣れさせるような授業を展開していく必要がある。また、教職員の評価も低かったので、教職員がICT機器を活用した授業ができるような研修を取り入れる必要がある。 ・タブレットの持ち帰りの件を含め、タブレットを用いた家庭学習の実践を進めていく必要がある。
	児童	④私は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりして、積極的に授業に参加している。	<p>① 45% ② 31% ③ 7% ④ 17% ⑤ 0%</p>	<p>課題解決への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員に向けてのICT研修を年間を通して増やしていく。 ・1年生の段階から積極的にタブレットを使用していくとともに、タブレットを活用した授業や宿題を増やしていく。
	保護者	④学校は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりする、授業を行っている。	<p>① 29% ② 55% ③ 15% ④ 1% ⑤ 0%</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTのより積極的な活用をしていく。 ・児童への提示の工夫をしていく。 ・家庭でのICTの活用を促す。 ・児童の情報リテラシー教育も重要である。
	地域	④学校は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりする、授業を行っている。	<p>① 80% ② 20% ③ 0% ④ 0% ⑤ 0%</p>	

鶴ヶ島市立南小学校 小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
体力	教職員	⑤私(学校)は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、児童の体力向上を図っている。	<p>① 33% ② 62% ③ 5% ④ 0% ⑤ 0%</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎週火曜日の業前の時間に「元気タイム」として運動の機会を確保した。その中ではチャレンジマラソンとリズム縄跳びを継続的に行った。長期休業中は体力貯筋の取り組みも実施している。体力の項目について、おおむね評価はよい結果となった。
	児童	⑤私は、体育や休み時間に、校庭や体育館などいろいろな運動をして、体力をつけようと努力している。	<p>① 71% ② 16% ③ 11% ④ 2% ⑤ 0%</p>	<p>課題解決への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期休業時の際に実施している体力貯筋の取り組みをさらに活用する。 ・運動委員会を中心に業間休み等で外遊びの紹介をしたり、全校でできる遊びを計画したりする。
	保護者	⑤学校は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、児童の体力向上を図っている。	<p>① 24% ② 56% ③ 18% ④ 2% ⑤ 0%</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の質問の中には休み時間も含まれているので、児童のとらえ方は違うのではないか。 ・学年関係なく外遊びできている状況がとてもよい。 ・勝ち負けにこだわるような取り組みがあってもよい。選抜での勝負を56年生には入れるとよいのではないか。 ・スポーツ少年団で体力を上げている児童が多いので引き続き地域の役割として行っていく。 ・怪我をしやすい時期なので、予防を教えるなどして、怪我をしない体を作っていくとよい。
	地域	⑤学校は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、児童の体力向上を図っている。	<p>① 40% ② 53% ③ 7% ④ 0% ⑤ 0%</p>	

鶴ヶ島市立南小学校 小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
生徒指導	教職員	⑥私は、児童の生徒指導上の課題等に対して、組織的に、家庭と連携・協力しながら対応している。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤ ③④⑤0%</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>・教職員間では、日々の生徒指導情報について情報共有を行う場を設けている。全職員で組織的に対応できる仕組みができているため、教職員の評価は高い。一方、児童と保護者の評価は低めとなっているところが課題である。</p>
	児童	⑥私は、いじめやトラブルなどの問題に対して、先生やおうちの人に相談し、一緒に解決しようとしている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤ ⑤0%</p>	<p>課題解決への方策</p> <p>・スクールカウンセラーや担任が児童一人一人をしっかりと見とるとともに、気軽に相談できる場を作る。 ・生活アンケートの取り組みについて、学校だよりや保護者会にて積極的に保護者に伝えていく。</p>
	保護者①	⑥学校は、いじめやトラブルなどの問題に対して、組織的に、家庭等と連携・協力しながら対応している。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤ ⑤0%</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>・学校は丁寧に行っているため、引き続き取り組んでほしい。 ・担任とコミュニケーションがうまく取れないときには誰に相談したらいいかわからないときがあるので、相談の窓口を広くしていくと相談しやすい。スクールカウンセラーへの直接電話もあるので周知徹底していく。</p>
	地域	⑥学校は、児童の生徒指導上の課題等に対して、組織的に、家庭等と連携・協力しながら対応している。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤ ③④0%</p>	

鶴ヶ島市立南小学校 小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
生徒指導	教職員	⑦私は、児童のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。	<p>① 38% ② 62%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤ ③④⑤0%</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>・全校で年間5回実施した「生活アンケート」や4、5、6年生が実施した「心と身体の健康観察アンケート」、5、6年生が実施した「hyper-QUテスト」がある。併せて悩みがある児童には個人面談を行った。教職員・地域の評価は高いが児童、保護者の評価は今一歩であった。</p>
	児童	⑦私は、自分のよさや可能性を伸ばしたり、友達との関わりを大切にしながら、自分の目標に向かって行動したりしている。	<p>① 66% ② 25% ③ 6% ④ 3%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤ ⑤0%</p>	<p>課題解決への方策</p> <p>・教育相談日などの積極的利用を保護者に促す。 ・相談室だよりによるスクールカウンセラーからの情報発信を継続して行う。</p>
	保護者	⑦学校は、児童のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。	<p>① 19% ② 59% ③ 18% ④ 4%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤ ⑤0%</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>・学校から、児童のよさを伸ばす具体的な取組が提示されるとよい。例えば、子供の提案による全校レクや、話し合いなど。 ・低学年は具体的な取組が分かっていないかもしれない。高学年のほうが、自分が何をしたいのか分かっている。 ・地域(運営協議会)は説明を受けているため、評価が高い。 ・勉強だけでなく、色々な体験をすることが大事。 ・小中一貫、シームレスに取り組めるようになるとよい。年代を考えず行事などを一緒に行うとよい。 ・鶴っ子サマースクールなどの機会を充実させる。</p>
	地域	⑦学校は、児童のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。	<p>① 47% ② 53%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤ ③④⑤0%</p>	

鶴ヶ島市立南小学校 小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
地域とともにある学校	教職員	⑨私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに努めている。	<p>① 44% ② 56%</p> <p>③④⑤0%</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>・教職員、地域ともに肯定的評価が100%であったが、保護者は74%となった。これは、保護者にとって、学校運営協議会や学校応援団の活動があまりわからないためだと考えられる。活動していることについての情報をより広めていく必要がある。</p>
	児童			<p>課題解決への方策</p> <p>・学校だよりや学校ホームページ、学校公開日にて、応援団活動についての情報を発信していくとともに、応援団活動への参加募集を行う。</p>
	保護者	⑨私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに協力している。	<p>① 16% ② 58% ③ 21% ④ 5%</p> <p>⑤0%</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>・地域との関係はうまく行っている地域である。中学生は地域の行事に参画している。地域の協力が多く子どもたちは恵まれている。 ・保護者は子供がやって楽しい、やってよかったねという活動を増やしていくことが必要である。人任せにならず、自分の子供のためにという考え方を持つとよい。 ・地域と保護者とともに活動を続けていくことが大切である。</p>
	地域	⑨私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに努めている。	<p>① 53% ② 47%</p> <p>③④⑤0%</p>	

鶴ヶ島市立南小学校 小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
働き方改革	教職員	⑩私は、働き方改革の目的を理解し、業務改善を進め、心身ともに健康であるよう努めながら、教科指導や教育相談等に係る時間を増やし、教育の維持・向上に努めている。	<p>① 37% ② 56% ③ 7% ④⑤ 0%</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>・肯定的評価が93%となり、おおむね良い結果となった。ボトムアップ型のカエル会議を行ったり、6月と11月にはホワイトボードにて退勤予定時刻を意識する仕組みを実践したりした。そうすることで、児童と向き合う時間や教材研究をする時間が増え、教育の維持・向上に努めることができた。</p>
	児童			<p>課題解決への方策</p> <p>・PCをさらに活用し、ペーパーレスや会議時間を短縮し、児童に向き合う時間や教材研究をする時間の確保を行う。</p>
	保護者			<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>・鶴ヶ島市には施設は少ないが、人的資本ではほかの地域よりもよくなっている。 ・本来の業務の意義を理解して子供と接する時間を確保するために積極的に進めてもらいたい。</p>
	地域			